

---

# 剣と魔法、そして拳の物語

どっち

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

剣と魔法、そして拳の物語

### 【Nコード】

N3362I

### 【作者名】

どっち

### 【あらすじ】

アルレデエル魔法学園に通うことになった片桐臣は実は身体強化しか使えない落ちこぼれ！？

## プロローグ（前書き）

こんにちは。始めまして！  
どっちです。

この作品を書いたわけは  
他の人の小説を読んでいたら  
頭の中で閃いて

あ、身体強化だけの主人公ってよくね？  
ということを思いついて  
ノリで書いてみました

ってことで初投稿なので  
まだまだ文章力が足りないの  
暖かい眼差しで見てください。

悪い点とかがたくさんあるので  
気づいた人はどんどん言ってください。

一応学園物なのでお楽しみに！  
@主人公はちよい最強です。「ってかグローブが最強^^

それじゃあこれから更新不定期ですがよろしく願います！！！！！

## プロローグ

9年前

とある洞窟の中

一人の少年が探検しに来ていた。

「うおー！！！すげえ！！！」

そこには青や赤や黄などの様々な宝石の色がきらきらと光っていた。

「綺麗だなー！！ちょっと持って帰って、お母さんにプレゼントしようよ」と

そして少年はもって帰ろうとして、近づいた。

ズズーン

「え！？なんの音」

キョロキョロと少年は当たりを見回した。

ズズーン

「地震！？」

グオオオオオオオオオオオオオオ！！！！



「ひっ!？」

少年に向かって突撃してきた

(・・・死ぬ!)

少年は何もかもを諦めたように目を瞑った

.....

(えっ！衝撃がない・・・？)

いつまでたっても当たった衝撃がなくておかしいと思った少年はゆ  
っくりと目を開いた

そして少年は見開いた！！



そこにはドラゴンが首を落として死んでいて、その近くに40代ぐ  
らいの男性がいたのだ。

そして少年の視線に気づいたのかその男性は少年に向かって

「よう！少年！無事か？」

少年は男性が何を言っているのかわからなかった。  
そして少年の中に安心の感情が芽生えた

「……助かったの？僕は助かったの？」

その声を聞いた男性は自慢げに自分の胸に親指を立てて

「おうよ！このスーパー格好いいラージ様が助けてやったぜ！！」

少年はそのラージをみて、無意識に

「ヒーロー……」

そしてラージは、少年の目の前まで歩いていき  
少年を頭から足までじっくり観察していき

「サーチ魔力解析」

そう呟いて、ラージは目を見開いた  
そして少し不気味な笑いをあげて

「ククク・・・これはおもしろいぞ・・・こんな奴は初めてだ・・・」

もう世界の大発見みたいな笑顔をしているラージは

「おい、少年！」

「・・・？」

ラージは担いでたガパンから一つのグローブを取り出して

「少年！これをやる！」

と、いつ少年に投げ捨てた

「……これは？」

「お前がこれからの人生で共にする相棒だ！」

「相棒……」

そして少年はグローブの方に目を向けると、

『始めまして。マスター』

「!?!?!?!?!誰?」

キヨロキヨロと少年は周りを見回した

『私は、あなたが持っているグローブです。』

少年はグローブの方に再び目を向けた

「グローブが喋った?」

「そのグローブは、魔法具<sup>マジックアイテム</sup>だ。世界の魔法使いに与えられる、一生に一つの武器だ。まあ要するに人生の相棒ということだな」

と少年の質問を答えるようにラージが説明した。  
少年は理解したのか。こくと頷いた

『私の名前はガルブとお呼びください。』

とガルブと名乗った自分の相棒に

「僕は、片桐臣かたぎりしんです。これからよろしく!」

『はい!マスター!』

あいさつが終わったところでラージが

「よし！じゃあ臣、ガルブを手付けてみる」

「えっ！でも僕の手じゃサイズが全然違うよ？」

そう、臣の手じゃサイズが倍以上違うのだ。

「いいから付けてみる。」

「わかった……」

と、ガルブを手につけてみるといきなりガルブが輝いた。

「うお！まぶしっ！」

5秒ぐらいたつたら光がやんだ

「……あれ？ガルブがちっちやくなってる……」

「それはな、魔道具は主人の体格にあつた大きさになるんだよ。」

なるほど、と少年は理解した。  
そして少年はふ、と気づいてラージに尋ねた

「なぜこれを僕に渡したの？」

「ああ、それはな……」







「お前が身体強化しか使えないからだ。」



そして物語は9年後に移る・・・。

## プロローグ（後書き）

どうでしたか？

悪い点などの報告まっています！

## 第1話（前書き）

どうも^^^

まだ学園入学の時なので  
全然面白くないと思いますが。  
がんばるので見てください。

## 第1話

アルレデェル魔法学園は、太平洋と真ん中の海に浮いている学園である。

学園には、平民、貴族、時には王族などいろいろな生徒が魔法を学習している世界一の魔法学園である。

そしてその世界一の魔法学園にこの春、片桐臣は入学することになった。



「ここが、アルレデエル魔法学園か……でかいな」

目の前にある東京ドーム10個分あるような建物に少年……片桐臣は、無表情だが内心結構驚いていた。

「さて、行くか」

と言って、臣は学園内に入っていった。  
そして大きなフロアについて受付のところに行った。

「すみません。」

受付の人が気づいたように

「はい、新入生でしょうか？」

「はい、そうです」

臣は無表情に答えた。

「では、名前を言って合格通知を渡してください。」

臣はカバンの中にある合格通知を出して

「片桐臣です。それと合格通知です。」

受付の人は、渡された合格通知に目を通して、臣の方を向いて

「片桐さん、合格おめでとございます。あなたのクラスは、1年2組です。体育館はお隣の扉にお入りになるとありますので、そこで教員に指定された席に付いてください。」

そう言われた臣は、隣の扉をあけて体育館の中に入った。  
そして1年2組の席を見つけて、その近くにいる教員見たいな男の  
先生に無表情で

「1年2組の片桐臣です。俺の席はどこでしょうか？」

と聞かれた教員(?)は

「おう新入生か。ちょっと待て、えーと片桐臣は………3列目の  
端っこだ。」

「ありがとうございます」

と無表情でお礼をいい、指定された席に座った。

そして時間が立つうちに、次々と生徒が集まり入学式が始まった。

「まずは、学園長からのご挨拶です。」

とアナウンスが入り、何か見覚えのある40代ぐらいの男が、ステージの上に立って

「ようこそ！アルレデル魔法学園へ。俺はこの学園の学園長、ラージ・デュヘル様だ！」

ととても見覚えのある男性が声を張り上げて言った。

シーン

ひそひそ

「おいあの人って、あのドラゴンハンターのラージじゃないか？」

「えっ？あのラージ？そういえばそうかも・・・」

とひそひそ話が聞こえ臣は

（あの人って有名だったんだ。）

と、とても感心していた。

そしてラージが

「この学園は、魔法を覚えたり、専門知識を身につけ将来に役立てるために設立した学び屋だ。しっかりと学習してくれよ！そして青春もしてくれ！」

と喋ってステージから降りていった

そのあとは、学園の説明、規則、寮のことについてなど話して、入学式は終了した。

「では、各担任の先生を紹介します。まずは1年1組、」

と担任の紹介にはいった。

「次に、1年2組、水谷浩二先生。」

と喋って結構ハンサムな男性が俺らのクラスの前に立って

「お前らの担任の水谷浩二だ。よろしく」

と少し笑みを浮かべあいさつした

キャーーーー

と女性からの黄色い歓声が体育館に響いた。

(うるせえ・・・)

臣は無表情でありながらとても苛立っていた。

「お静かに、次は、1年3組、」

「これで各担任の紹介を終わります。では、これから担任の指示に従って。各教室に向かってください」

といい、水谷先生が

「では、俺のほうについてきてくれ。」

といい俺らは付いていった。

これからの期待を胸に。 (臣は何も考えてないが





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3362i/>

---

剣と魔法、そして拳の物語

2010年10月10日19時36分発行